令和４年度「知事と市町長の円卓対話」（グループ）概要

１　対話市町　　津　市（津市長　　前葉（まえば）　泰幸（やすゆき））

鈴鹿市（鈴鹿市長　末松（すえまつ）　則子（のりこ））

亀山市（亀山市長　櫻井（さくらい）　義之（よしゆき））

２　対話日時　　令和４年10月１日（土）１５：００～１６：３０
３　対話場所　　三重県鈴鹿庁舎　４階　第４６会議室（鈴鹿市西条５－１１７）
４　対話項目　　３市における圏域づくりについて

５　対話概要
対話項目　　３市における圏域づくりについて

（鈴鹿市長）
当市の小児救急について、体制が十分に確保できているとは言えない状況にあり、特に夜間の小児救急医療については、近隣市の医療機関で対応いただくケースが多い。 また、当市や亀山市を含む北勢エリアの小児医療圏は小児科医師が不足しており、相対的医師少数区域に該当している。
令和５年度末には，第７次三重県医療計画の計画期間が終了することからも、次期計画の策定に向けて小児科医師の確保に向けた取組を拡充いただくなど、小児救急医療体制の整備に向けた支援をお願いしたい。

（亀山市長）
３市の圏域においては高速道路や幹線道路が充実しており、国道２３号中勢バイパスの全線開通が予定され、また、国道３０６号鈴鹿亀山道路が今年度に新規事業箇所として公表されるなど、ＪＲ・近鉄の鉄道在来線と合わせ、広域交通網の結節点として、今後も重要な役割を担っていくものと考えている。人口減少や高齢化が進展し、さらには若者の県外・市外への流出が続く中、３市の持つ優れた交通拠点性や地理的優位性等を活かし、地域活力の向上に向けた産学民官連携による取組を、県と３市が共通の枠組みの中で連携・協力しながら進める必要があると考えているので、県によるリーダーシップの発揮をお願いいたしたい。

（津市長）
三重県においては、平成 31 年に「三重県消防広域化及び連携・協力に関する

推進計画」が策定され、３市の消防本部では消防指令業務の共同運用による効率的な運用に向けて体制を強化し、諸般の検討を進めている。

この消防指令業務の共同運用を成功例に、今後も様々な分野で３市が連携を図っていきたいと考えているので、県としては、情報提供や助言などの支援をいただければと思う。

（鈴鹿市長：亀山市長の発言を受けて）

スーパーメガリージョンの形成が議論されている中で、リニア中央新幹線の開業は大きな起爆剤になると考えている。

一般国道２３号中勢バイパスは、全線開通により県内を広域的につなぎ、大きな役割を果たす国道となる。一般国道３０６号鈴鹿亀山道路の新規事業化が決定し、北勢・中勢エリアの幹線道路はますます充実していく。そこに、リニア中央新幹線の県内駅候補地が亀山市に決定したことで、新たな産業や子どもたちの学びの場など、次世代に向けての大きな拠点になることができ、連携を図ることができると考えている。

ものづくりを中心に発展しているエリアであるが、そこに交通の利便性が加わり、今後の三重県の大きな強みになると感じているため、三重県の見解も伺いたい。

（鈴鹿市長：津市長の発言を受けて）

３市における消防指令業務の共同運用については、しっかりと成果を上げることができると考えている。

消防本部内の機材やシステムは特殊なものが多く、共同運用が可能となることは非常に有り難い。また、各市の事情は異なるが、消防業務の中で各々の職員が力を発揮し合う、あるいは勉強し合うことが今後重要になる。南海トラフ地震などが心配される中、職員どうしが学び合い、助け合うことができる先進的な取組である。

三重県においても、いくつかのブロックに分けて消防の広域化を図るという話があったため、３市の取組が第一歩につながれば良いと考えている。

（亀山市長：鈴鹿市長の発言を受けて）

本市も、小児救急医療が十分対応できていない状況となっており、人材の確保に向けた奨学資金貸与にも取り組んでいる。子育てを行う世代が、安心して子育てをできる環境を充実させるためにも、県においても、小児医療をはじめ、医療体制の整備に向けた支援をお願いしたい。

（亀山市長：津市長の発言を受けて）

３市の消防指令業務が一元化されることにより、従来からの課題であった市境界付近での対応等、本圏域の消防行政サービスの一層向上につながるものと考えている。県においても、引き続き、消防の連携・協力に向けた支援をいただきたい。

（津市長：鈴鹿市長の発言を受けて）

三重病院が果たしている役割は大きく、多くの救急搬送を受け入れていただいており、広域的な役割を担っていただくことにこれからも期待を寄せている。また、津市内には、三重中央医療センターや三重大学医学部附属病院があり、今後も、こうした医療資源の有効利用を図っていきたい。

（津市長：亀山市長の発言を受けて）

リニアが整備されるわけだが、３市の市境をいったん意識せずに、どのような人が住んでいるのか、どんな産業があるのかを検討し、リニア三重県駅の有効的な活用に向けて、三重県においても交通政策あるいは、都市政策の中でご尽力いただきたい。当市に関して言えば、北部の地域が玄関口となる可能性もあり、都市計画や道路整備の観点から３市の市境を一旦外してまちづくりを考えると夢が広がる。

（知事：鈴鹿市長の発言を受けて）

県内の小児科医数は全国で３０位となっており、全体数を増やしていくことと小児救急医療における体制整備は、課題として認識している。

小児科医は勤務条件が厳しいことなどからも、なり手が少ない診療科目であり、確保対策については、小児科医の魅力発信や三重大学と連携し「地域枠」を設けることの検討等に取り組んでいるところである。

令和５年度は三重県の医療計画の見直しが行われる年であり、その中で、小児科医や救急医療をどうやって確保・整備していくのかを議論していきたい。

（補足）

医学生に対する修学資金貸与制度について、県外の学生に向け充実・拡充を検討していきたい。

（知事：亀山市長の発言を受けて）

北勢地域の道路環境はずいぶんと良くなってきており、リニアも含めて発展可能性が高い地域でもある。

県としては、リニアの（経済的）効果等をどのように県全体に波及させていく

か、ＯＤも含めて検討しており、リニア駅の設置場所については、三重県民の利便性と共に、将来の発展可能性の観点から県外の研究所や企業にとっての魅力についても考えていく必要がある。

今後、発展が期待される地域であり、その発展を確実なものとするため、議論を進めていきたい。

（知事：津市長の発言を受けて）

３市でのこれまでの検討・推進に感謝申し上げる。

松阪や伊勢など、当地域での検討推進の影響を受けて指令業務の共同運用についての検討が開始された地域もある。

ＤＸの活用等により、人手を減らし効率的な運用を図っていただきたい。指令業務は消防の要であり、かつて経験した海上保安庁での業務も同様であった。

実際の運用に関しては様々な課題が出てくることが予想されるが、法定協議会の設置を含め、そうした課題の解決に向けて県としても支援をしていきたい。

令和６年度に緊急消防援助隊中部ブロック訓練が本県で開催される。

鈴鹿市での開催となるため、ご協力をお願いしたい。

フリートーク①　リニア三重県駅を中心としたまちづくり

（津市長）

リニア三重県駅は圏域の中心になるので、そこへ向かうアプローチとして、中勢バイパスへのアクセス道路を集中して整備してきた経緯がある。

駅を中心に放射状につながる道路を整備していくことになると思うので、三重県のいろいろな計画のもとで、市が力を合わせていきたいと考えている。

リニア三重県駅について、三重県に来る人、三重県から出かける人、さまざまな利用者がいるので、駅を利用したい、降りたいというニーズを掴むために、極めて大きなポイントは無料駐車場だと思う。津なぎさまちは同じ発想で、本来、高速船利用者が民間駐車場を使用する場合はその使用料が発生するが、市が無料駐車場を設置することにより、公共交通を支えている。ぜひ亀山市営駅前駐車場を三重県と一緒に作ってほしい。

（知事）

候補地が３つあり、現時点では具体的な話ができないがさまざまな議論をしている。名古屋以東間の先例を見ながら、ハード・ソフト含めてリニア計画、都市計画をしっかり作っていきたい。

リニア三重県駅周辺の公共交通機関、特に高速バス、路線バスをどうしていくのか、金沢のようなショットガン方式のバスステーションにするのかなどさまざ

まな議論が必要だと考えている。かなりの時間と費用もかかってくると思うので、またご相談させていただきたい。

全国の空港には駐車場があり、三重県駅周辺の駐車場の整備についても織り込んでいる。場所や無料化については、今後検討していく必要がある。

（亀山市長）

千載一隅のチャンスで、県内全域でのハード・ソフト含めた具体的な県としての対応を期待したい。バスは全国各地、この 20 年くらい大変な状況で、特に地方は厳しい。事業者に頑張っていただいているが、市町もサポートしている。３市で、例えば津市の椋本から亀山駅に向かうバスの廃止が決まったので、津市と一緒に協力してなんとか維持をしているし、鈴鹿市とは、亀山駅から平田町駅までの路線の廃止をなんとか協力して維持をしている。県には、都市間の路線を維持していくサポートをぜひお願いしたい。

（知事）

地域交通については、人口減少の中でますます大変になってくるだろう。市域を超えたバス路線の補助というのは県でやっているが、なかなか利用者が減ってきて難しいところがある。他方、人口が減少しているので、かつては右肩上がりで人口が増えていた時代に維持できていたバス会社のバス路線が難しいところ。

地域にフィットした形、利用者が一番満足する形を試行していきたい。リニアが開通すると、タクシーがニーズにこたえられるのかという問題もある。南部の観光地においては、夜８時以降タクシーがいないという問題も出てきている。今のタクシーの許可制度のままではなかなか対応できないので、近々通常国会で法律改正されると思う。

鉄道も利用者がどんどん減ってくるので、どういう形で鉄道を維持するのか、実際に運行している事業所などと協議をしていかなければならない。関西本線の件でいえば、JR と向き合って話をしていく。これが一番大事だと思っている。伊勢鉄道は第三セクターの鉄道の中では収益は悪くなく、全国で５番目だったと思うが、コロナでは苦しんでいるので、この急場をどう凌いでいくか、各市町に了解をいただきながら進めている。交通は県が弱いところではあるので、庁内でも検討を進めているところ。

（鈴鹿市長）

行政だけでは成果の出しづらい施策が、公共交通及び高齢者の移動手段の確保である。当市は自動車のまちであるため、一人一台の自動者を所有し、元気なうちは自動車で移動するという風土が根強く、自動車に対する意識を変えていくこ

とは難しい。３市を合わせると人口が多い中、タクシーの不足やバスの廃止路線の問題などにより、困っている人も多く、満足度が低くて重要度が高い施策の一つである。１つの市で解決していくことは難しいため、リニア中央新幹線の開通を契機として、民間企業に少しでも投資をしていただけるような施策につなげていければと考えている。

高齢者に対して運転免許証の返納を呼び掛ける中、それを補填する施策を確立していかなければならない。また、県外から来た方はＪＲやバスが主流であるため、企業誘致の際も最寄り駅やバスの運行について問われることが多く、産業誘致を考える上でも重要な施策である。地元で長く生活していると気がつかないが、こういった意見もいただいているため、何か３市で連携できればと考えている。三重県からも支援をお願いしたい。

リニア三重県駅にはぜひ無料駐車場をお願いしたい。伊勢鉄道の鈴鹿駅においても、無料駐車場の設置により利便性が上がっているという実績もある。

（知事）

免許返納は都会では地下鉄の駅も近いからすぐ可能であるが、日本では東京と、名古屋大阪の中心部だけだろう。自動運転ができれば変わってくると思うが、まだレベル３に入ったところ。レベル５になればいいが、突然の飛び出しに対応できない問題がある。民間の事業者には、スピードがでない、衝撃を与えないような車を作ってもらわなければならない。自動運転のレベル 4 になったときには、導入にかかる相談をさせていただきたい。

コミュニティバスは下火にはなってきているが、広域的なコミュニティバスのようなものを運行する必要が出てきたときには県として支援をしていかなければならない。バス路線は人口集積地などであれば充実できる部分はあると思うので、きちんと考えていかなければならない。基礎自治体のご意見、事業者のご意見を聞きながら、モデルケースを考えていきたい。

フリートーク②　人口減少対策について

（亀山市長）

亀山市は自然減と社会増であり、社会増の部分でなんとか維持をしている現状である。子育て支援などいろいろな施策をしっかりやっていくことが大切だと考えている。子ども医療費の無償化、この 10 数年で三重県は遅れていたが 10 番目くらいまで引っ張って行ってもらった。三重県は市町が頑張ったことによって都市間競争が生まれ、それに引っ張られて県のスタンダードが随分上がっていき、今は 12 歳までの医療費について、無料化というスタンダードを作ってもらった。

どの市町で生まれて、どの市町で住むのかというところで、格差を解消しても

らった。三重県スタンダードでしっかり支えて、三重県全域、他府県との格差が解消されているというような状況が重要だと最近感じている。

（津市長）

こども家庭庁ができて、国が子ども関係予算を2倍にしようということなので、三重県も増やすだろうと思っている。子ども医療費の助成については、未就学児の窓口医療費が無料になるときに、増える分を全額は出さないと三重県が厳しい判断をした。増えた分をもらえているのはひとり親家庭等と限定的になっているので、全額三重県に出してもらいたい。県が出さないので、市町が肩代わりしているような感じになっている。

津市は、子どもを産み・育てやすい街ということを言ってきたが、それだけではダメなので、若者が住みたいと思う街にしなければならないと思っている。1つは子どもが生まれる前の大人に対して、津市は妊娠5カ月以降の医療費を1カ月 1500 円頭打ちにして残りは市が負担している。また、出会い支援もやらなきゃいけないと考えている。相当行政が人口減少対策に踏み込んでいかないと、今の状況は非常に厳しいと感じている。

（鈴鹿市長）

行政は発信の仕方が下手だなとつくづく感じている。キャッチフレーズを上手く活用して情報発信を行っている自治体があるが、取り組んでいる施策を見ると三重県や当市、近隣市においても実施している施策が多い。県内では、特に名張市が先進的に取り組んでいる。子どもが生まれる前の妊娠期から 20 歳に至るまでの途切れのない支援を目指し、見て分かりやすいように施策を発信することが、市に足りない部分であると感じている。

三重県は、ＧＩＧＡスクール構想に向けた取組が進んでおり、全国の情報化教育に関するランキング記事を見たところ、県内多数の市町が上位に入っていた。このような情報を若い世代を中心に、様々な媒体を活用して周知することが重要である。

当市は、保育園や就学前教育、放課後児童クラブも含めて全て待機児童はゼロである。医療費の無償化については、所得制限を撤廃し、対象年齢も 15 歳までとしており、トータルすると多数の施策を進めている。そういった中で、当市の弱い部分を考えると出産時の支援体制である。

また、鈴鹿市医師会との協議の中で、特に、若い小児科医師が開業できるまちは子どもが増え、人口が増えるという話があった。保護者は、出産後、子育てをする際に、最初に出会うのが小児科医師であるため、若手の小児科医師がいるまちを探すと聞いている。そういった点でいうと、三重県は小児科の開業が減少し

ており、当市においても小児科医師の高齢化が進んでいる。人口減少には、進学や就職による問題もあるが、入り口の出生数を増やすという点では、こういったところを一つ一つクリアしていくことで、子どもが増え、若者が育つまちにつながると考えている。今後、情報発信の仕方については、丁寧に、分かりやすく、上手に、斬新にしていきたい。

（知事）

発信の下手なのは三重県の特徴かなと思う。人口減少対策も観光もそうだが、発信をしていかなきゃならない。東京、大阪、名古屋への発信も大事であり、三重県で何が欠けているか、弱いところはどこかというところの分析も必要。

それから、出会いの場の確保もしっかりやっていく。若者への対応も弱いのが現状である。先日リモートでやった若者との会議で、三重県は若者が集まれる場所がない、大門のシャッター街をカフェとかにしてほしいという大学生らしい提案があった。アメリカ村のような感じの小規模なものがあればいいよねというものだと思う。若者がここに住んでいてよかったと思うようなところを津、四日市、亀山、鈴鹿にも作っていかなければならない。

子ども医療費、15 歳未満の子ども一人あたりの県補助額は 6 位まで上がってきた。近隣の県と比べるとまだまだ。財源が伴うので、国とも話をしている。何ができるかしっかりと考えて進めていきたい。

厳しい指摘を頂戴した。一つ一つの問題を、県だけではできないので、皆さんとお話をしながら解決していきたい。